

フラワーガーデンのイメージ
フォトには、「クライアントを
大切に」「自分自身が自分
を大切に」というメッセ
ージがこめられています。クライ
アントが、それぞれに自分らし
い花を咲かせられるように願
い、サポートを続けています。



ごあいさつ
フラワーガーデン施設長
オーバーヘイム容子

皆さまのおかげで1周年を迎えました

昨年6月、治療共同体メソッドに基づいた国内初の女性専用依存症リハビリ施設として、奈良県橿原市に設立した『フラワーガーデン』が、皆さまのおかげで1周年を迎えることができました。皆さまからの日ごろのご理解とご支援に感謝の気持ちでいっぱいです。この1年間で、私たちは様々な悩みを抱えた女性と出会いました。ワンネスのプログラムを用いて、クライアント一人ひとりが抱えていることに向き合い、女性らしさを大切にサポートを続けてきました。1周年を迎えるにあたり、あらためて「女性のための依存症回復支援施設」の必要性を強く感じております。

女性同士だからできる回復を目指して

開設当初は、女性特有の感情の不安定さや身体の悩みなどを含んだ問題に向き合う、この重要な任務を果たせるのだろうか、私自身が不安に感じることもありましたが、しかし、いつも献身的に支援を続けてくれるスタッフや、ワンネスグループの仲間の協力、そしてクライアントと過ごす回復の日々を通して、女性専用のリハビリ施設だからこそできることが、経験として感じられています。この年に「女性同士だからこそわかち合い、わかり合えること」「衝突することで見

治療共同体メソッドに基づいた

国内初の女性のための
依存症リハビリ施設
『フラワーガーデン』が
1周年を迎えました。

える人間関係」など、多くのことを学ぶことができました。施設内の様子も、とても明るい雰囲気です。10～40代という世代の違う利用者が一緒に回復を目指しています。お互いの違いを認めることが、新しい発見と共感につながっています。スタッフとクライアントが一緒になって、依存症という病気に取り組み、新しい生き方、考え方を習得するために日々を懸命に生きています。

失敗も成功も成長の糧として

今、依存症に苦しむ女性は増加傾向にあると厚労省からの発表もあり、対策がますます急がれています。にもかかわらず、依存対象は違ったとしても、重症化してからでないと施設につながる事ができないケースが多いように感じられます。私たちができることは、女性専用の依存症回復施設としての存在を広く発信して、ひとりでも多くの方とつながり、ともに回復を目指すこと。さらには回復後に、女性が自立して社会の中で生活できるよう、また依存症で傷ついた家族の再生や再び子育てが行えるようサポートすることです。重大な責務ですが「失敗も成功も同じ学びとして受け止めることで成長していける」という、グループ代表である矢澤の教えをモットーに、みんなが幸せになれるよう、さらなるチャレンジを続けていきたいと思っています。先日、スタッフとクライアントのみんなと、これからのフラワーガーデンのイメージ像を話しました。「笑顔あふれる場所」「一人ひとりが安心できる」「回復を楽しもう」「輝く女性の施設」など、前向きですばらしい意見が出ました。私たちの存

Report

フラワーガーデンフォーラムを開催
6月27日(土)／大阪市立総合生涯学習センター

『フラワーガーデン』開設1周年を記念したフォーラム「女性の依存症回復～一緒に回復していこう～」を大阪・梅田で開催しました。当日は依存症本人やご家族、また司法や行政、医療関係者など多くの方が参加し、1年間の歩みを振り返るとともに、女性の依存症支援には何が必要なのかを考えるひと時となりました。利用者の体験発表や、回復者でもあるスタッフと母親による対談が行われたほか、設立時から関わってくださった弁護士、議員、家族会などの皆さんによるリレートークで、それぞれの熱い想いが語られました。今後もフラワーガーデンの存在を発信し続け、依存症の渦中にある本人やご家族と、さらには女性ならではの問題を解決するため、様々な職種の方々とお会いしたいと感じています。



「1年間、いろいろなことがあったからこそ、女性専用回復施設の必要性をますます感じる」と語った施設長のオーバーヘイム容子。



参加された方々は利用者の体験談に涙したり、笑ったりしながら耳を傾けてくださいました。同じ時間を過ごすことで、理解と支援の輪は広がっていきます。

フラワーガーデンに
つながれた奇跡に感謝。

ちーさん

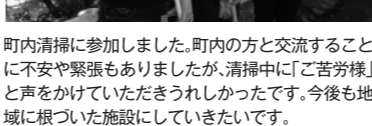
私は5歳児を持つシングルマザーです。10代の頃からコカインや大麻、覚せい剤、危険ドラッグなどの薬物依存に苦しんでいます。最初は興味本位でしたが、じきに薬物に飲み込まれ、水商売を始め、クラブに通い、刺激を求める毎日でした。そして19歳の時に妊娠し、20歳で結婚しました。その夫も薬物依存症で、私が子どもを産んで5日目に警察に逮捕されました。不安になった私は、妊娠中はタバコまでやめていたのに、また薬を再使用しました。そんな私を、父親は精神科病院に入院させましたが、入退院を7回もくり返しました。結局、病院では回復はできず、親が見つけてくれたフラワーガーデンに入寮したのです。今、仲間の中にいるにつれ、やさしさや思いやりに触れ、少しずつ自分が変わっていくのがわかります。仲間といれば悲しみは10分の1に、楽しいことは何倍にもなる。ここに来られていなければ、今ごろ刑務所か死んでいたのではないかと思います。フラワーにつながれた奇跡に感謝していますし、今は両親にも感謝できるようになりました。いつも一緒にいてくれる仲間にも感謝です。

フラワーガーデン
クライアントの
ストーリー

フラワーガーデンフォーラムでは、
スタッフや利用者の方が、体験談を語ってくれました。
自分の経験をありのままに勇気を持って話す姿こそが、
回復の道を歩んでいる証だと感じられました。
体験談を一部、レポートします。

自立してからも、
回復の道を歩み続けることが目標。

ようこそ



フラダンスのワークを行いました。身体を楽しく動かすことで、適度に汗をかき代謝をあげてリフレッシュします。音楽を聞きながら、リラックスして行いました。

Information

「手をつなごうよ～今を生きる人々へ～」プロジェクト
依存症を抱える女性とその子どもたちへの支援ご協賛のお礼

ワンネスグループと女性のための依存症リハビリ施設『フラワーガーデン』では、依存症や生きづらさを抱えるご本人やご家族(とくに子ども)のサポートを通じて、「いのちの大切さ」「つながりの中で生きる」というメッセージを発信してまいりました。今、成人女性の依存症が増加傾向にあると警鐘が鳴らされるなか、さらなるサポート体制の充実が必要だと考えています。私たちはフラワーガーデンのプログラム充実のため、また依存症や生きづらさを抱える女性の支援、さらには家族(子どもたち)の支援のためにさまざまなプロジェクトを計画しています。私たちのプロジェクトにご賛同いただける方々から、多くのご支援をいただいております。スタッフ一同深くお礼を申し上げます。ここで、ご支援いただきました皆さまのお名前をご紹介します。皆さまよりいただきましたご厚情は、有意義に使わせていただきます。

ご支援、ありがとうございます!



自分自身を探求し、
自立を目指していきたい。

まいさん

17歳の時、当時、付き合っていた男性に覚せい剤を勧められ、興味本位で始めました。薬を使うと自分に自信が持て、瘦せられることでさらに自信が持てました。風俗店で働けばお金も手に入るの、薬が買えずに困るという経験もなく、ダラダラと続ける日々でした。昼の仕事に就いて、半年程度薬が止まっても、結局、再使用し、薬のない生活なんて、私にはもう無理だとあきらめていました。そんな時、警察に逮捕され、刑務所へ行くことに…。裁判の時、情状酌量のための証人として、お父さんが必死に私をかばってくれ、涙が止まりませんでした。「今までやりたい放題やってきたのだから仕方ない」と、刑務所では一日でも早く刑期を終えられるよう、問題なく過ごせるよう、心にフタをして過ごしました。2年半服役し、弁護士さんの勧めでフラワーガーデンにつながりました。家族と離れてゼロからのスタートで、最初は不安でいっぱいでしたが、仲間と話ができるようになったり、ふとした景色に心が動いたり、今までになかった小さな喜びを感じられるようになりました。過去は逃げればかりの人生でしたが、自分自身を探求し、自立を目指していきたいです。先行く仲間のように、私も回復し続けることが目標です。

愛する息子たちや母と、
いつか笑顔で会いたい。

ゆみさん

初めて覚せい剤を使ったのは18歳の時でした。当時、ギャングに狂っていた夫と離婚し、夫がいない場所で幼い子どもたちを育てよう、水商売をしながら必死で働いていました。地元を離れて、幼い子どもたちを育てることはとても不安で、そんな不安や淋しさを消して、強い自分にしてくれる薬が私には必要でした。しかし、薬を使わずに生きることができなくなり、泣きながら「何をしているんだろう」と自分を責め続ける生活が15年以上続いたのです。約2年前、別のリハビリ施設につながり、一度は回復を目指しましたが、再使用が始まりました。昨年10月にフラワーガーデンにつながりましたが、当時は回復への希望も抱けず、感情もなく、人が怖かったです。入寮して5カ月の時、リラプス(再使用)し、ようやく底をつきました。それから仲間の力を借りて、回復に希望が見つけられるようになり、変わりました。今は毎日の生活に感謝しています。薬漬けの人生に、何度も死にたいと思って生きてきましたが、今は薬がなくても生きていける力がほしいです。私の回復は始まったばかりですが、いつか愛する息子や母に笑顔で会いにいきたいです。

「手をつなごうよ～今を生きる人々へ～」プロジェクト協賛いただいた
皆さま

プロジェクトに協賛いただいた方のお名前をご紹介します。

福原正様／株式会社井戸田蒲田店様／株式会社ダイショク様／新奈良法律特許事務所様／城垣税理士事務所様／弁護士 宮坂行様／トドロキボウル様／株式会社FVC様／南部総合法律事務所様／弁護士 戸城杏奈様／つながり総合法律事務所様／中川印刷所様／当麻モーターズ様／菊井正宏様／一法律事務所 弁護士 射場守夫様／弁護士法人やまと法律事務所 弁護士 幸田直樹様(6月20日分まで掲載)／順不同)